

倉田コミュニティハウス通信

2010年9月号 NO. 46

〒244-0816 戸塚区上倉田町 1865-4 Tel/fax 045-866-1800

男の手料理特別版そば打ち倶楽部

男の手料理特別版「今年の年越しそばはお父さんが打とう！」を目標に、5回のコースで本格そば打ちを習います。北海道のそば粉、新潟の小麦粉を使った二八そば。本格かえしを使った「そばつゆ」も作ります。昼食は皆で品評会を兼ね、わいわい楽しく食べましょう。ご家庭へのお土産もあります。

9月25日	10月16日	11月13日
12月11日	12月25日	
全5回 各土曜日 午前10時～午後1時		

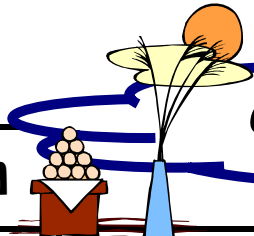


募集人数：男性9名

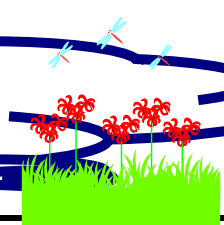
参加費用：9000円(5回分の受講料・材料費全て含む)

材料は厳選されたものを一括で取り寄せます。そのため参加費用は申し込み手続き時に全額でのお支払いをお願いいたします。欠席された場合、返金は出来ませんが材料・資料はお渡しいたします。

募集方法：9月10日(金)10時から9月14日(火)まで来館・電話にて受け付けます。定員を超えた場合は、9月15日(水)10時より公開にて抽選を行い、ご通知いたします。詳細はお問い合わせ下さい。



9月の予定表 詳しくはお問い合わせ下さい。



日			
1(水)	抽選会	午前 10時から 2010年 10月分の抽選会です。	
7(火)	1・2・3クラブ&フリースペース	1歳～未就園児向けの子育て支援です。	申し込みは終了いたしました。 午後 12時から 1時まではフリースペースになります。
4・11 18・25 (土)	3時になったらラジオ体操プラスお茶	0歳～高齢者 どなたでもどうぞ	簡単な体操をして、その後お茶会です。参加費 100円です。
4(土) 26(日)	倉田いけばな子供教室		申し込みは終了しましたが、ご希望の方はお問い合わせください。
6・13 (月)	トールペイント講座		申し込みは終了いたしました。
10・24 (金)	水彩画講座		
15(水)	ぴよぴよクラブ	8ヶ月～1歳半向け 子育て支援事業 上倉田社協共催事業	午前 10時から午後 12時まで 定員 30組。人数によってはお断りすることもあります。活動費 50円です。
17(金)	サロン上倉田	高齢者・幼児向けサロン 上倉田社協共催事業	お年寄りも大人も子供も 楽しいひと時をお過ごしください。 午前 10時から午後 2時まで
21(火)	0歳児クラブ	0歳児向けの 子育て支援です。	申し込みは終了しましたが、 ご希望の方はお問い合わせください。
21(火)	フリースペース	親子の遊びスペース	午後 2時から 3時まで
22(水)	上倉田社協食事会	高齢者向け会食会 上倉田社協共催事業	おいしいお食事を食べて、 ゆっくりお過ごしください。 午前 11時半から午後 2時まで
24(金)	ハートぽっぽクラブ	1歳半～2歳半向け 子育て支援事業 上倉田社協共催事業	午前 10時から午後 12時 30分まで 定員 30組。人数によってはお断りすることもあります。活動費 100円です。
25(土)	男の手料理特別版 そば打ち倶楽部		1面をご覧ください。
27(月)	休館日	全館点検のためお休みいたします。	

皆さんのページ

このページは倉田コミュニティハウスで楽しく集っているサークルの活動を紹介したり、仲間を募集したり、作品を載せたり、皆さんがご自由にお使いいただけるページです。

書道愛好サークル 「松ぼっくり」



2009年6月から倉田コミュニティハウス自主事業として始めました「初心者書道講座」がその後、サークルとして活動し、早や、1年になろうとしています。現在、松浦 均先生の個別添削指導のもと、部員数20数名で各自、書道を通じて、個性の表現に切磋琢磨しています。

あなたも参加してみませんか。あなたの潜在的能力の発見があるかも！！老若男女問わず、どなたでも結構です。

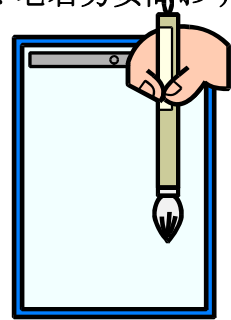
場所：倉田コミュニティハウス 多目的ホール

活動日：月2回（原則第1、3木曜日）午後1時30分～3時30分

活動内容：かな・漢字（書体自由）の練習及び茶話会もあります。

活動費：月500円（お茶代含む）

代表連絡先：嘉山 千賀子 tel 045-881-4561



スタッフのひと一言

街道を一人で旅していると、道が分からなくなったり、今歩んでいる道が正しいのかどうか急に不安になったりする。そんな時手持ちの資料を丹念に見直すのだが、それでも確信が持てない。こうなると藁をもすがる思いで、人を見つけて道を尋ねる。が、旅を始めて間もない頃は、快く対応して頂けなかったり、目を合わせただけでそっぽを向かれることが多々あった。

何故だろうと考えた。風体のせいなのか、挨拶の仕方が悪いのか、それとも世が殺伐として、ゆきずりの人に関わりたくないのか？とか色々考えた末に、試してみたのが、帽子を取って、会釈をしてから道を尋ねるという方法である。

それまでは帽子をかぶったまま会釈をして道を尋ねていたのだが、帽子を取るという方法に替えると、不思議にも、老若男女を問わず、また仕事中心にもかかわらず、どなたでも対応して下さる。時にはしばらく同行さえしてもらえる。数人が集まってきて、街道あれこれと話がはずむこともある。本当に皆親切である。

知人にこの話をすると、海外旅行では帽子を取る必要はない、とのこと。ともあれ、日本では、帽子を取る、取らないには大きな差があるようだ。それとも、帽子を取る行為が、自分自身の態度や心のあり方に微妙な変化をもたらしているのだろうか。

《 N. I 》